岩手県立盛岡農業高等学校

令和7年度 年間指導計画

整理番号 47

A科:動物科学科　B科:植物科学科　C科:食品科学科　D科:人間科学科　E科:環境科学科

教 科	農業	科 目	生物活用	単位数	2	学年・学科	2学年・A科
教科書	実教出版「生物活用」	副教材					

学習目標	動物とふれあい、世話をすることによる、生物の福祉的、療法的な活用の意義と役割を学びます。
学習方法	学習プリントやスライド、関連資料を用いながらわかりやすく学習します。また、動物のふれあいをとおした実習から、体験的な学習をしたり、動物に関する各種調査レポートの作成に取り組みます。

学習評価		評価の観点	評価の観点の趣旨
	a	知識・技能 （専門教科は知識・技術）	動物の活用に関する基礎的な知識を身に付け、それらの特性を活用した活動や療法の特質を理解します。また、動物の活用に関する基礎的な技術を身につけ、その技術を適切に活用します。
	b	思考・判断・表現	動物の活用に関する諸課題にの解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に課題を適切に判断するとともに、科学的にとらえて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けます。
	c	主体的に学習に取り組む態度	動物の活用について興味・関心をもち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けます。

		重み付け	考査	考査外
		100%	60%	40%
前期中間	知識・技能(技術)	40%	30%	10%
	思考・判断・表現	30%	20%	10%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	10%	20%
		100%	60%	40%
前期末	知識・技能(技術)	40%	30%	10%
	思考・判断・表現	30%	20%	10%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	10%	20%
		100%	60%	40%
後期中間	知識・技能(技術)	40%	30%	10%
	思考・判断・表現	30%	20%	10%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	10%	20%
		100%	60%	40%
後期末	知識・技能(技術)	40%	30%	10%
	思考・判断・表現	30%	20%	10%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	10%	20%

学期	単元名 （題材）	学習内容 （小単元）	評価の観点 a	評価の観点 b	評価の観点 c	単元の評価規準	評価方法
前期中間	1 生物活用と意義と役割	・生物活用の大切さ、私たちの暮らしと生物活用について学びます。	○	○		ab:生物活用の意義と役割を理解し、る課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント ・提出課題 ・定期考査
	2 動物と人間生活	・私たちの暮らしと動物について学びます。	○			c:動物の飼育と応用について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	
		・動物がもたらす効用、動物の活用、扱うさいの留意点について学びます。		○	○	bc:動物の飼育と応用に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づき、創造的に解決しながら主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
前期末	3 イヌの飼育と活用	・イヌの種類と特性、飼育と管理、活用について学びます。	○	○		ab:動物の飼育と応用について理解しているとともに、応用に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント ・提出課題 ・定期考査
	4 交流活動の心がまえ 交流の実際	・交流活動の大切さ、心がまえについて学び、動物を用いた活動を行います。	○		○	ac:生物活用の実践について理解しているとともに、関連する技術を身に付け、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
後期中間	5 ウマの飼育と活用	・ウマの種類と特性、飼育と管理、活用について学びます。	○	○		ab:動物の飼育と応用について理解しているとともに、応用に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント ・提出課題 ・定期考査
	6 そのほかの動物の飼育と活用	・そのほかの動物の飼育と管理、活用について学びます。			○	C:生物活用の実践について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
後期末	7 生物を活用した療法	・生物を活用した療法について学びます。	○			a:生物を活用した療法について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント ・提出課 ・定期考査
	8 動物介在療法	・動物介在療法とは何かについて学びます。	○	○		bc:生物を活用した療法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	
		・世界や日本における動物介在療法の実際について学びます。			○	C:生物を活用した療法について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	